

● 13年経過した『東日本大震災(マグニチュード9)』について：**巨大地震の実態を再検証！**

● 2万人以上の犠牲者と原発事故、**災害の「課題と教訓」**から、**次への大災害の備えを！**

私たちにできること… 地震は突然襲ってきます。教訓：自らが備えることしか役に立たない！

国内観測史上最大 マグニチュード9.0 の巨大地震 詳細

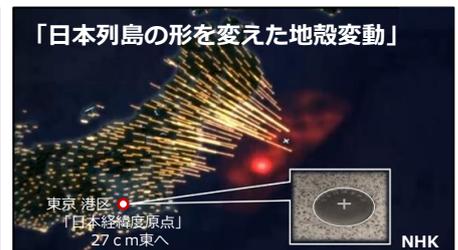
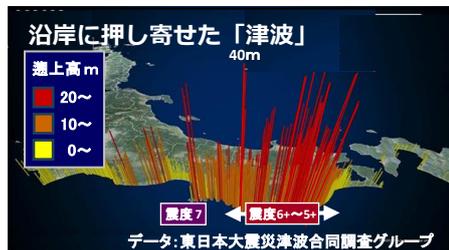
NHK・東日本大震災調査グループ資料より

- ▶ 巨大地震により死者行方不明者22千人以上の大災害、東京電力福島第一原発事故も発生。
- ▶ 東北～関東沿岸を襲った観測史上最大の津波。日本の形を変えるほどの地殻変動。



- ・震度7：宮城県栗原市。
- ・震度6強：宮城・福島・栃木・茨城の4県37市町村。太平洋プレートが沈み込む。
- ・継続時間3分は、“想定外の長さ”。
- ・断層が極めて大、破壊が終わるまで3分以上に。

- ▶ サイレント津波(海底地すべり)で40m津波発生。地殻変動で東京ドーム20倍の面積が拡大！



- ・岩手 大船市綾里南側湾口：40.0m。
- ・岩手 宮古市：39.8m、宮城 女川市：35.0mなど。
- ・宮城県沖で、緑や黄色の大きな津波が発生。
- ・岩手県北部沖でも大津波＝サイレント津波発生。
- ・水平方向：最大5.4m、上下方向：最大沈降1.1m。
- ・東北沿岸部は、1年間で70cm前後、東にズレた。

2万人以上が犠牲に、原発事故も、震災の「課題と教訓」

NHK報道より

教訓 ①「想定の対象外」だった地震・津波・原発事故！

- ▶ 国の中央防災会議は東日本大震災を契機に、今後「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震や津波、原発事故」を想定。▶ 今後予想される「南海トラフ地震・首都直下地震など」に対応。
- ▶ 能登半島地震の想定も27年前のまま災害度低い。活断層の活動評価は2024年度中に順次公開予定。

教訓 ②「津波避難 ▶ 大丈夫」と避難しなかった人も

- ▶ 犠牲者の多くが「津波」によるもの（第1報の津波警報3m、防波堤は10mで避難しなかった）。
- ▶ 「高台など安全な場所に逃げて命を守ること」。▶ NHKも『命を守る呼びかけ』に見直しされた。

教訓 ③「被災者支援」避難所・被災者・住宅・行政 対応の課題

- ▶ 避難所 劣悪な環境（衛生や健康管理）“関連死”も。▶ “女性視点” “高齢者など”対応 今も課題に。
- ▶ 被災者に十分な物資が届かない。▶ 関連死を防ぐには“**T**：トイレ” “**K**：キッチン(温かい食事)” “**B**：ベッド”。▶ 今も続く“住まいの課題”、入居者の「孤立」と、相次ぐ『孤独死』。

教訓 ④「即応体制」広域・大規模災害への対応ができない？！

- ▶ 広域に及ぶ大震災では、広域大災害 特有の教訓。▶ “防災拠点の喪失”、“支援力”が激減＝支援を受ける力も。▶ “物資が届かず”。▶ 南海トラフ地震が起れば、日本全人口の約1/2が被災者に！。

教訓 ⑤「帰宅困難者」首都圏 515万人 (首都直下型地震：800万人予想)

近畿+中京圏

- ▶ 首都圏では帰宅困難者の数は515万人に。「南海トラフ」が起きた場合：1,060万人帰宅困難者に。
- ▶ それでも帰りますか？！・・・「群集雪崩」の発生など、命に関わるリスクも懸念される。

「機転だけでできた事」は一つもなかった!! 備えていたことしか役には立たなかった。災害が起きる前に どれだけ準備できていたか! というのが実際の現実!! : ~官僚の話~

— 会員の皆さまへ お願い !! “ 教訓を次の災害に活かす ! ” 私たちにできること —

❖ 「大災害：自らの命は自ら守る?!」 そのためにも日頃から災害への準備が最も大切!!

❖ 阪神淡路大震災-東日本大震災-熊本地震-大阪北部地震-能登半島地震、忘れていませんか!!